

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4795700014		
法人名	社会福祉法人憲寿会		
事業所名	グループホームときわ苑		
所在地	沖縄県島尻郡八重瀬町字当銘370-1		
自己評価作成日	平成27年10月1日	評価結果市町村受理日	平成27年12月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=4795700014-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F
訪問調査日	平成27年 11月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、母体施設の特養を併設しています。年間行事計画等(桜祭り、ハーレー見物、ゲートボール大会や納涼祭り等)は、利用者やご家族、職員、地域住民の交流との一環として毎年開催しています。またグループホーム単独では、季節に即した諸行事(新年会、雑祭り、敬老会、忘年会、クリスマス)を開催している。利用者の趣味や嗜好を取り入れた活動として、パズル、手工芸、書道なども位置づけています。各自の居室や共有スペースに作品の展示を行い、面会時に御家族や親類友人との談笑の糧にされています。また外出支援に力を入れ、月2~3回のドライブ、受診時の帰りのミニドライブ、自宅への立ち寄りなども支援しています。職員全員が献身的に業務に従事し、入居者が安心して生き生きと生活できる、家庭的な雰囲気のある事業所作りをめざして実践できている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は母体法人の介護老人福祉施設が隣接しており、法人の看護師が利用者の健康管理や服薬管理などを担当、状態を把握し情報交換することで医療との連携が取れている。法人全体の行事には、地域住民の方の参加があり、利用者は馴染みの方と交流できる場になっている。包括支援センターからの依頼で、職員が福祉用具の使用法や認知症ケアについて専門性を活かして講話を行う等、認知症への理解を含めた啓蒙活動にも積極的に取り組んでいる。職員は利用者と一緒に毎食前、体操や口腔体操を実施し、口腔機能低下の予防に取り組み、食欲増進に繋げている。利用者一人ひとりの思いや意向を確認し、食事の下ごしらえやお膳拭き、花壇の苗植え、水やりなど個別の活動を取り入れ支援している。今年から職員の意見を反映し賃金アップが実現している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

確定日:平成 27年11月30日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入所者様個々の尊厳を大切にすることを心掛けて「暮らしやすい環境の下、悠々と 温々と 今日ん あなたらしさを支援致します」との理念を大切に、日々の環境整備、入所者様との関わりを大事にしています。	介護理念は開設時に作成されている。外部評価で意見があり、見直しにつて職員を中心に話し合いを行ったが、今までの理念を再度確認し継続していくことになった。「あなたらしさ」を大切に日々のケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	八重瀬町ハーレー、ゲートボール、綱引き行事、豊年祭見物・参加、法人主催行事の本島縦断駅伝応援や納涼祭りへの参加による地域交流をできる限り継続しています。	地域の行事に職員と一緒に参加、ハーレーの行事には家族の協力を得て参加している。小学生の職場見学や歌や踊りのボランティアを受け入れている。近所の方とは散歩の時に挨拶したり、利用者が一人で外出している際に、声をかけてもらうようお願いするなど交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	八重瀬町ケアマネ連絡会の依頼を受け、グループホームの運営・実情についての説明、案内を行い相談助言実施しています。また地域へのチラシ配布を通して認知症への理解を求める活動も家族の会と連携し継続しています。		
4	(3)	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、偶数月(第4水曜日)に開催しています。入所者様の生活状況、生じた問題、ヒヤリハット、事故などの報告を行い、意見・情報交換しています。ケアの振り返り、職員の技能向上の貴重な契機になります。	運営推進会議は年6回定期的に開催され、家族、行政担当者、地域包括支援センター職員、区長が参加している。事業所の運営状況やヒヤリハット、外部評価結果などを報告している。利用者は会議の際には外出し、会議への参加はない。	運営推進会議は、利用者の状況を知っていただくことも大切なので、利用者が参加出来る工夫の取り組みが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、八重瀬町福祉課主事や包括支援センター所長が委員として参加している。GHの現状についてのみならず、地域の高齢者の状況、サービスの状況についても情報交換できる貴重な会議と認識しています。	町の福祉課から、町民を対象にした福祉用具操作や認知症ケアについて職員が講師依頼を受け行っている。また、町の担当者から、地域の困りごとについて相談を受けることもある。包括支援センター職員とは利用者や家族の事で相談をして、アドバイスを受けるなど連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間の玄関の施錠以外は自由に屋外に出入り可能です。ベッド柵等の固定や鈴、センサーなどもない。精神心理症状で落ち着かない時は、基本は職員の付き添い、見守りで気分転換を図れるように支援、決して拘束はしない。	家族には入居時に事業所の方針を説明し、日中玄関は開錠している。職員の言葉による行動制限の指摘を重く受け止め、利用者、家族へ謝罪と説明を行い、推進会議に報告している。職員全員にアンケートを取り、カンファレンスや勉強会を行うなど改善に取り組んでいる。	

沖縄県(グループホームときわ苑)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マスコミで取り上げられる虐待の事例は関心を持ち、自己のケアの振り返りの契機としている。また虐待防止法の学習、入所者の生活歴、思いの共有を意識的に図り支援している。不適切なケアの改善に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様が該当しそうな事例が1件あり、特に成年後見人制度について情報収集、学習を行い見識を深めるように努めた。資料を収集し何時でも閲覧検討できるように保管していた。結果的に該当はなくなった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時は、入所予定者やご家族に対して重要事項説明書・契約書を読み上げて提示、具体的な対応方法や確認事項はわかりやすい言葉で説明している。項目ごとに理解・納得の有無を確かめています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所者様と御家族の意見要望を聞き、対応するように常日頃から心掛けています。家族の不安な点や、ケアで不満な点は記録に残し、職員間で情報共有を図り、改善につなげるようにしています。	利用者からは日頃の生活場面で、家族からは面会時や利用料の支払いの際に意見や要望を聞いている。家族からは「病院受診の際に手伝って欲しい」「体重を増やさないようにしてほしい」などの要望があり、病院受診の支援や体重管理を行い報告するなど対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	問題点や改善点を提案できる機会を設けている。各自が向上心を持って働けるように、意識的取り組みがある。	職員の意見や要望について、会議や申し送り、業務中などに意見を聞いている。また、年に1回管理者との面談の機会を設けている。「年休が欲しい」の意見に職員を増やすなど要望に沿って対応している。「賃金アップの希望」について法人全体で、介護職の賃金アップが行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	改善点や処遇上の要望を提案できる場を設定しています。各自が意欲と向上心もち、業務に当たれるように多面的に聞き取り実施しています。結果人員の確保、有給休暇の取得、研修意欲の向上が見られました。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に対し常に内外の研修の情報を提示しています。職員は各種の研修や勉強会に参加を希望しシフト調整で受講が可能です。また法人全体でも定期的に外部講師による学習会を実施しています。		

沖縄県(グループホームときわ苑)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沖縄県グループホーム連絡会に加盟し、定期的な管理者会議、介護職研修会に参加。情報交換、交流等の時間を確保している。職種を限定せずに多くの職員が参加できるように心がけてサービスの質の向上を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前情報の確認は勿論ですが、特に本人からの申し出が無くても、声かけ、様子観察で内面の戸惑い、不安なこと等を感じ、対応できるようにしています。はじめは居室等でじっくり話せるように面談実施している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相互の信頼関係の構築は特に重要で、しっかりと傾聴することを心掛けています。入所を決めるまで様々な経過があり、葛藤し、悩み苦しみつつ決断されている。その過程を共有する事で関係を作り、支援に生かしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の実地調査で本人の状態把握を行うことは勿論ですが、他サービスを利用されている場合は職員からも状態の聞き取りを実施している。本人と家族の声を聞きどのようなケアが必要か見極めて支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事作業を個々の意欲、身体機能に応じて役割分担し担えるように支援している。入所者様と職員が共に例えば洗濯物干し、取り込み、畳み、片づけの共同作業を行う。余暇活動でも前庭の草取りや植え付けを共に行う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診時や面会時はその都度情報共有を図り、又必要に応じて電話連絡で緊密な連携を心掛け、支援している。本人の要求、意向を伝え、家族の意向を確認して、絆を保ち大切に開くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親類の面会時等にも生活状況の報告につとめ、再来の声かけをして関係の継続を図っている。付き添いで病院受診の帰り道に自宅へ寄ったり、近隣をドライブしたり、思いで話を聞きつつ支援している。	関係性の把握は利用者、家族から情報を得ている。友人や宗教関係者が訪問し、一緒に過ごしている。家族対応で、行きつけの美容室に通っている方や地域の行事に参加する利用者もいる。自宅周辺や馴染みの場所にドライブに出かけるなど関係が途切れないよう個別支援を行っている。	

沖縄県(グループホームときわ苑)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の営みの中で、3度の食事、レクリエーション、おやつなど皆が互いに会話、交流し楽しめるように支援できている。誕生会やおやつ会、ドライブ、諸行事への参加も皆で楽しみ支え合って過ごせるように支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や特養への転所等でも退所となっても、相談支援を継続し、次の担当ケアマネに繋ぐまで関係が途絶えることはありません。そのように関わることを予め家族にも確認、約束し不安が無くなるように支援しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の個性、意向を大切にすることを心掛けて支援しています。日常生活の中で本人が訴える事、会話、雑談でみえてくる個々の思いを把握、職員間で伝達・共有して検討して、本人本位で個別の対応を重視している。	利用者の思いの把握は、居室で1対1の時に確認し対応している。把握が困難な場合は、家族からの情報や本人の表情・行動等から職員が推察している。利用者一人ひとりの役割や出来ることを増やして、ちり紙たたみや花壇の植えかえや水やりなどを支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に入手した基本情報や、直接の面談で入所に至る前の生活歴、環境、意向を把握、整理し、職員間で共有し、必要に応じてその都度本人・家族・前の担当職員からの聞き取りを実施している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の状態観察、記録、朝夕の申し送りなどで情報共有し全員の言動・意向等可能な限り把握している。緊急性・必要性により職員間にも確実に伝言ノートや記録で伝わるように心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画はサービス提供者会議で、入所者や家族、看護師、介護士、必要時は医師のコメントを頂いて計画の策定と実施に反映している。状態変化がある際にはそのつどアセスメントしケア方法を全職員で検討している。	介護計画の見直しは、更新時や状態の変化が見られた際に行われている。モニタリングは年1回相談員が行っている。現在、支援している内容が介護計画に反映されていないケースがあった。今年5月からタブレット端末を使用し介護記録の時間短縮に役立てている。	現在行われている支援内容などが計画に反映され、現状に即した介護計画の見直しと作成が行われるよう取り組みに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況や介護実践を通して生活の様子や気づきをケア記録、業務日誌に記載し、支援に活用している。朝夕の申し送りや、必要時の対策会議(適宜開催)で、個々の入居者の実情に即したケアを提供している。		

沖縄県(グループホームときわ苑)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	心身の機能変化、意向や要望の推移を見極め、確認しつつ、既存の方法にとらわれないサービス提供で、本人の満足度が高まるように支援している。居室へのTV設置、好みの菓子類の提供、マッサージ、訪問歯科診療等。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	病院等の地域支援連携室や八重瀬町地域包括支援センターとの連携を心掛けている。支援に必要な情報のやり取り、困難事例への協力依頼も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は各々かかりつけ医に定期受診し、健康管理、服薬管理を継続している。内科・精神科、整形、呼吸器科と症状も多彩で家族と分担し受診付き添いを実施、都度ケア記録を提供し適切な受診を目指している。	利用者は馴染みのかかりつけ医に家族または事業所対応で受診を継続している。受診時にはケア記録一覧の書面を手渡している。週1回の看護師による健康管理や24時間オンコール体制が確立され、点眼方法や薬の管理の指導の他、事故時の対処方法について連絡を取っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同一事業所(特養・デイサービス)の看護師の協力あり。体調変化時の緊急対応、処置ができる。常に相談助言を求め、連携できている。正看護師1名が週1回の健康チェック、また緊急時は24時間の連絡体制可能である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当医師、医療スタッフ、また地域連携室の担当相談員と情報交換を積極的に行っている。カンファに参加し、状態の把握、変化あるときの対応法等、確認できている。研修などでは関係職員との交流を心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にあらかじめ看取りの説明、確認を行うが、状態の変化、病状悪化で重度化した時は改めて確認を行っている。実施は医療系の施設への転所になっているが、GHでできることの内容はしっかり伝え理解を得ている。	「看取りに関する指針」を入所時に説明し、また、利用者の状態の変化に伴いその時々で話し合いを行っている。家族の多くは医療系の施設を希望しているが、医療的ケアの必要のない人であれば受け入れる予定である。看取りの必要に応じて往診や看護師とも連携を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアル策定、緊急連絡先の確認はその都度行っている。夜勤が一人なので介護職の不安を軽減し、落ち着いて対応できるように普段から確認している。		

沖縄県(グループホームときわ苑)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の自主訓練実施。火災や水害、地震等の災害時に入居者全員の安全な避難を行う、いざという時に落ちついて対応できるように、職員がなすべきことを優先順位を決めて、地域との連携も含めDVDで勉強し、確認実施。	夜間想定で年2回消防避難訓練を実施している。特に新人職員の夜勤想定で行い、消火器の使用方法や通報機器が操作できるよう確認している。マニュアルには法人連携が謳われているが訓練には参加が無い。水や自家発電装置を準備しているが、食料等備蓄は確認していない。	火災時に利用者の安全を守るためにも訓練に近隣(法人)からの参加を期待したい。また、備蓄の準備が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個性を理解し、個々の意向・要望を傾聴し個別のケアを重要と考えて実施している。日常の慣れ合いを排し、声かけ・会話に意識性を貫き丁寧な関わりを心掛け、重視している。	接遇に関して事業所内学習会を開催し丁寧に接する事を徹底している。利用者を焦らせない、強制しない等利用者のペースに合わせた声かけに気を付けている。利用者の個別ケアの実践でパズルを利用する等その人にあつた対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	さりげない会話、個別的な面談で入居者様が遠慮なく要望や希望を表出できるように意識して関わっている。少しの声でも受け止め、確実な支援につなげるように意識している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそつて支援している	パズルや手工芸が好きな方、テレビやビデオを見たい方、様々です。折り合いがつかない時は居室にテレビを設置したり個別の対応を実施。生活歴、習慣を尊重しその人の好みを考慮した支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服、お化粧、外出時の整容は基本的に本人が選択し見守りで行っている。散髪は理美容の経験のある職員がボランティアで実施。希望者はパーマ、毛染めに付き添いで外出支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の心身の状態に応じ、準備、食事、片づけは利用者と職員が一緒に行っている。準備でお膳やおしぼりの配布、食事は一緒に頂く、食後は下善、テーブル拭き、掃き掃除を声かけて一緒に実施している。	献立は、1ヶ月毎法人の栄養士が立て、希望があれば給食委員会で訴えて反映される。主菜等は法人から配食され、事業所でご飯を炊き、キザミ、ミキサー食等調整している。おやつ会ではヒラヤーチーやソーメンチャンプルー等を利用者と共に楽しめる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事摂取量のチェック、記録、水分摂取量の確認を実施できている。水分摂取が少ない方は特にスポーツドリンクや好みのジュースなどをいつでも提供できるように準備している。		

沖縄県(グループホームときわ苑)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きは全員が確実に実施できるように、準備・声かけ・誘導し見守りしている。部分義歯の洗浄を指導してもらうため歯科衛生士の訪問を依頼したり、支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は全員がトイレで排泄できている。不安な方はリハビリパンツにパット装着し、トイレ往来時に職員が見守り、パットの交換を実施、また便失禁時は下半身浴を行い清潔保持に努めている。夜間は2人はオムツ対応。	排泄チェック表を利用し、利用者の排泄パターンを把握、日中は全員トイレでの排泄を支援している。夜間は利用者の状態に合わせて、オムツやポータブルトイレを活用している。便トラブルを抱えている人には、薬の服用の管理や失敗時には夜でも下半身浴し清潔に保てるよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防を念頭におき、管理栄養士の食事献立の工夫、水分量の確保、日中の活動量の増強支援している。食物繊維の摂取を考慮した野菜ジュースや果物の施洲を促す工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	各自の希望や外出、受診、排泄の失敗などその都度タイミングをみて入浴し快適に過ごせるように支援できている。曜日を固定し強制することはなく、柔軟な対応ができている。必要時は毎日、又足浴も実施。	浴室には浴槽があり、今は希望する人は無くシャワー浴を1対1で支援している。週2回を基本に、状況により下半身浴等柔軟に対応している。入浴後の服を自分で選び持っていき方やお化粧をしている利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各居室で本人の体調に合わせて、休息したり衣類の片づけをしたり、マッサージ、ラジオを聞くなど好きなように過ごさせている。室温の管理、遮光カーテンの開閉、扉の開閉も各自で決定し意向に沿って対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬処方についての注意書は常に職員が確認できるように薬箱のそばにおき何時でも閲覧可能。薬の変更や増減は申し送りで伝えて情報共有し、状態変化や注意を要する点は記録を残すようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	パズルや手工芸、書道など各々の得意なこと、その時々でやってみたいことができるように支援している。単独であったり、共同、職員と一緒にであったり、取り組みは変化するが皆が楽しみを持ち過ごせている。		

沖縄県(グループホームときわ苑)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや買い物、苑内、近隣までの散歩を希望される利用者がありその都度可能な限りの外出支援を実施。また冠婚葬祭、旧盆帰省等の外出、祝日の外食も半数程度の方は御家族付き添いで行かれる。	花の水やりや犬と遊ぶ、事業所周りを散歩する等して気分転換を図っている。月に2、3回ドライブに出かけ浜下りやハーレー見物等に出かけている。また、スーパーへ買い物や、受診後に自宅に立ち寄る等の個別支援を行っている。盆・正月等の行事には家族と外食に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は基本的に家族が管理している。一人は本人管理で買いたいものがあるときに頼んだり職員付き添いで買い物に行ける。もう一人は家族から相談員が預かり必要なものを一緒に買っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状は職員が手伝って入居者から家族へ出している。手紙はやりとりない。電話は訴えが あるときに職員が携帯で繋ぎ本人が受話器を持って要件を伝えることがたまにある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は明るく、リビングは全員がゆったりと過ごせるように広さを確保して落ち着けている。季節の変化、諸行事により飾り付けを変えて視覚的にも雰囲気を楽しめている。見学者や面会時の家族反応を確かめつつ入居者の声も聞いてレイアウトを変更している。	毎朝窓を開け換気し、温湿度計で環境管理している。感染対策で手洗いを徹底し、車いす、杖、手すりを消毒用アルコールで拭き感染症予防に努めている。季節毎に飾りつけを施し、行事の写真を貼っている。利用者はそれぞれ好きな場所のソファに座り、テレビを觀賞している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで入居者同士が談笑したり(たまにいさかきもあるが)テレビやDVDを見たり、新聞や雑誌を読んだりくつろいでいる。各々好きなように過ごせる時間がある。お互いの居室への訪室も楽しめている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家財道具のほとんどを自宅から持ち込み好きなように配置して暮らしている方も1人いる。他は備え付けのベッド、タンス、洗面台に満足され、必要物品を好きなように配置して居心地良く過ごせている。	ベッドやタンス、洗面台が備え付けられ、家族の写真、時計等が置かれている。ベッドの位置や向きは本人や家族と相談しながら設置している。荷物を持って帰ろうとする利用者には、保管を工夫する等その人に合わせた部屋作りをしている。居室にはそれぞれ花の名前を付け、入口を装飾している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレや浴室には目印になる表示を施している。壁にはカレンダー、時計を設置いつでも確認できる。歩行能力を維持するための杖使用、自力歩行の方の安全に配慮した手すりの設置、7人は歩行移動できている。		